

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600704		
法人名	社会福祉法人 華世会		
事業所名	ヘスティア華城グループホーム		
所在地	山口県防府市大字伊佐江1598番地		
自己評価作成日	平成22年6月29日	評価結果市町受理日	平成22年12月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

記録物には全て押印することにより情報を共有しながら入居者の状態把握に努め、職員間で連携を図り、生活全般の支援を個々に合った方でやっている。職員14名を配置して、異動や退職もほとんど無く、入居者と馴染みの関係を築きながら、交代勤務の中で柔軟に対応できる体制をとっている。入居者一人ひとりのペースや安全面に配慮し、出来るだけ車椅子を使用せず、付き添いや手引き歩行等に対応しながら残存能力の維持に努めている。入居者、職員共に女性であることから、衛生面や身だしなみにも細やかに配慮し、心地よく過ごせるようになっている。また、地域ボランティアの方の協力により、おしゃれの日・アレンジフラワーの日の関わりを通じ、馴染みの関係性の構築と維持、楽しみの時間確保により、社会性を維持している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護度が進行する中でも、職員がアイデアを出し合い、工夫して利用者本位の支援に取り組んでおられます。年1回は段階に応じた外部研修に参加できる機会を提供されたり、復命研修や内部研修など働きながらトレーニングしていくことを進められ、全ての職員がスキルアップできる様に職員を育てる取り組みをされています。利用者と職員との関係が和やかで、利用者が穏やかに過ごしておられる様子が伺えました。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者がその人らしく生活を営むことができるよう、また、ご家族への支援や地域福祉に貢献できるよう、地域密着型サービスとしての運営理念を作成し、事務所に掲示して、職員が働きながら確認できるようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を、職員間で話し合い作成している。事務室に掲示し、カンファレンス時や業務の中で確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方と月2回交流を図ったり、文化祭への作品出品、地域の幼稚園児の慰問等、機会を設けている。	ボランティアの訪問(おしゃれの日、アレンジフラワーの日)や隣接のデイサービスでの保育園児との交流、自治会から防災訓練参加等の案内、買い物時に店員や地域の人との交流、地域の文化祭への作品出展、福祉委員の勉強会に講師として参加するなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市より委託された、認知症啓発事業について、年1回講座を開催している。また、地域住民の勉強会へも出向き講義を行い、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で取り組み、意義の理解や改善に努めている。	管理者や職員は評価の意義を理解しており、自己評価書を全職員に配布し、日々の業務を振り返りながら記入し、意見をまとめ全職員で確認して具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、地域住民の代表者(自治会長・第三者委員)ボランティア会会長、市職員、地域包括支援センター職員、施設の管理者、以上のメンバーで、2ヶ月に1回開催している。入居者の状況や行事報告を行い意見交換を行っている。	利用者、家族、自治会長、第三者委員、ボランティア会会長、市職員、地域包括支援センター職員、施設管理者等をメンバーに、2ヶ月に1階会議を開催し、現状報告や問題点を話し合い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	状況報告や、相談等を通じて、サービスの質の向上に努めている。	市担当者(市障害高齢課)に事業所の考え方や実態をよく知ってもらうため、ケアサービスの取り組みを伝えたり、困難事例の相談等を通じて、積極的な協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスの中で、具体的な対応について検討し合い、取り組みを行っている。	運営者や全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。鍵をかけないケアについては、隣接のケアハウスとの連携体制や見守りなどカンファレンスの中で具体的な対応について検討し、意見を出し合い、取り組みを行っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	記録物に目を通し押印することで、些細な入居者の変化も見落としが無く、職員間での情報の共有に努めている。今年度は、まだ施設内研修の機会を設けていないが、後半の研修課題として取り組みたい。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、まだ施設内研修の機会を設けていないが、後半の研修として取り組みたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の説明を行い、質問等へも対応している。また、解約時や改定時にも同様である。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、第三者委員を明示したり、意見箱を設置している。また、苦情処理手続きを定め、円滑に対応できるようになっている。	相談、苦情の受付体制、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定め周知している。月1回の支払いに来訪された時や運営推進会議時に家族が意見や要望を言える雰囲気づくりに努め、出された意見は運営に反映させるように取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のカンファレンスの中や日常業務の中で、意見交換に努めている。	管理者はカンファレンスや日々のミーティングの中で意見を聞くように努め、一緒に話し合いながら調整している。職員体制等の提案を受け入れ、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適切な評価に努め、手当等支給がなされている。また、資格取得に向けての支援や、希望する研修への参加ができるように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	勤務の一環として、外部研修に参加できるようにしている。また、月2回のカンファレンスの中で、研修報告を行ったり、施設内研修を行っている。	全職員のスキルアップのため、資格、習熟度の段階に応じて、勤務の一環として外部研修に参加できるよう支援している。月2回のカンファレンス時に復命研修や事業所独自の勉強会を実施すると共に、働きながらのトレーニングにも取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加することで、他事業所との情報交換や交流に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談や自宅訪問を行い、意向に沿えるようにつとめている。また、事前に見学や体験利用も行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、本人を外し、家族への聞き取りを行う時間を確保している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用や、他事業所等の情報を提供し、必要な支援について紹介している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、必ず「ありがとう」の感謝の声かけを行い、入居者との関係作りに努めている。日常生活の中で、食事の準備や後片付け、洗濯干し・洗濯たたみ、掃除等、一緒に行う中で、支えあう関係作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、近況を報告し、必要に応じて協力を得られるように、情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかり付け病院を継続して受診したり、行きつけの美容院やスーパーを利用したり、地域行事に参加したり、地域の広報誌を見ることができるようになっている。	入居前からのかかりつけ医の受診、行きつけの美容院、スーパーの利用や地元の文化祭やお祭りへの参加、友人や遠縁の方の来所など、関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の状況把握に努め、気の合った者同士が関わり合え、不安無く過ごす事ができるように、時には、職員が媒介となりながら、環境を整えている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後についても、必要に応じて、情報の提供や相談を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向を聞くように心がけたり、言葉や行動から察し、カンファレンス等で検討を行い、希望に添えるように努めている。	日々の関わりの中で、本人の希望や意向の把握に努め、個人記録に記述し、押印をして全職員が共有する仕組みとなっている。把握が困難な利用者については、家族から情報を得ると共に、本人の視点に立って話し合っており取り組んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族から情報を得たり、関係機関より情報提供をもらったり、入居者との話の中から聞き出し等により、把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、連絡帳等に日々の状態を記録し、それに目を通し押印することで、職員間で情報を共有し、把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には、面会時に近況報告と合わせて対応状況を伝え、意見を求め反映できるように努めている。また、本人の思いを聞き、主治医の意見を参考にしながら、カンファレンス時に、報告し意見交換を行いながら、生活の質の維持や向上に向けて支援できるように取り組んでいる。	利用者、家族の思いや要望、主治医の意見を参考にし、全職員で意見交換をして介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤者は、その日の担当入居者を受け持ち、過ごし方や気付き、観察事項等の様子を記録している。また、記録は、目を通すと押印して情報を共有しており、カンファレンスで意見交換し、計画の見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族によって環境も異なるため、個別に把握し、受診や外出への付き添い等、入居者やご家族のニーズを聞き入れ、その時々状況に応じて対応を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方との関わりや地域文化祭への参加、顔なじみの方との触れ合い等、周囲の人力による協力を得ながら、楽しみとなる機会を確保している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	でいるだけ入居前からのかかりつけ医に受診することで、現状把握や状態の変化の把握に努めている。受診時には、看護師が付き添い、医師との連携を図っている。必要に応じて、ご家族と相談しながら、他科受診の通院支援も行っている。	今までのかかりつけ医や希望の病院で受診できる。必要に応じて家族か看護師が同行し、様子や変化を伝えて、医師との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	双方が協力し合い、記録物や口頭により、情報を共有している。介護職は、気付き等があると、すぐに報告・相談を行い、入居者にとって適切な対応が受けられるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図りながら、入居者やご家族と相談し対応している。また、相互に情報提供を行い、レベル低下を最小限にとどめるように努めている。入居者が意欲低下を引き起こさないように、入院中は、職員が見舞う機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申し込み時と入居時に、重度化した場合や常時医療行為が必要になった場合の対応について、説明を行っている。また、症状の変化や、受診の状況をご家族に報告し、その都度意向を確認して、必要に応じて、他の関係機関とも相談等を行っている。	入居時に重度化した場合や医療行為が常時必要になった時には、医療機関や他施設の移行ということを説明している。本人や家族、事業所側の状況に応じて話し合いを繰り返すと共に、意向を確認して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書、ヒヤリ・ハット報告書に記録し、対策を検討したり、想定される事故や事故防止について、カンファレンスの中で協議し取り組んでいる。また、事故発生時の対応や急変時のマニュアルを作成したり、施設内研修を実施している。	マニュアルを作成し、事故報告書、ヒヤリはつと報告書に記録して、対策を検討している。一人ひとりの状況に応じた事故防止をカンファレンス時に話し合い、事業所内研修を実施している。骨折、意識不明等の対処方法、救急救命法等の定期的訓練や夜勤時の緊急事態対応は十分とはいえない。	・初期対応や応急手当等の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、入居者ごとの避難方法を確認している。災害時等には、同一敷地内のケアハウスと連携をとる体制をとっている。また、災害時に地域と協力が図れるように、緊急連絡網の中に入れてもらっている。	年2回、昼夜想定避難訓練と利用者ごとの避難方法の確認をしている。隣接のケアハウスは地域の避難場所となっている。自治会の緊急連絡網の中に入っており、自治会主催の防災訓練に参加予定など、地域との協力体制がある。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の対応方法や声かけ等につて、施設内研修を行ったり、カンファレンスの中で協議し対応している。	事業所内研修をして、職員は誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、できるだけ希望を聞きだすように声かけを行ったり、選択できる事柄については、自己決定できるような言葉掛けを心がけている。自己決定が困難な方については、理解度等により言葉掛けを工夫し、本人の思いが伝えられるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務日誌やケース記録により、個々の状態の把握に努め、入居者のペースに沿った対応を行っている。生活時間の流れは大体決まっているが、入居者の意向を尊重したうえで、働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせて美容院を利用したり、起床時に着替える服を選んでもらうようにしている。また、月1回ボランティアに協力してもらい、お化粧品等を楽しむ機会を作っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の朝食・夕食と、週に2回の昼食は、施設内で調理しており、食事の準備や後片付けを一緒にいき、一人ひとりの役割の確保に努めている。また、職員も同じ食事を取りながら、必要に応じた支援をおこなっている。	朝、夕食と週2回の昼食は事業所で調理しており、一人ひとりのできることに合わせて食事の準備や後片付けを一緒にいき、職員も同じ食事を取りながら楽しく食事をしている。また、利用者の好みや苦手な物も把握して、さりげなく声かけをしたり、工夫に努めている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の時間を作っている。食事摂取量については、個人差があり、把握したうえで、チェック表に記入し、体調管理に活用している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや必要な支援を行い、口腔ケアを実施している。また、口腔内の観察を行い、異常があれば、歯科受診等も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の状態により、排泄チェック表を活用している方もある。排泄前の行動にも目配りして、失敗の軽減に努めている。支援方法については、カンファレンスで話し合い、個々に合った対応を行っている。	トイレでの排泄を可能にするため、利用者の状態に応じ、排泄前の行動に目配りしたり、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間を見計らい誘導するなどの支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の時間を定時に設けたり、その時間以外でも積極的に働きかけを行っている。乳酸飲料などを取り入れたり、適度な運動も行っている。個別に排便チェック表を作成し、状況に応じて食事や飲食物を工夫したり、主治医と相談して、薬の処方を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、毎日行っている。大体の時間帯は決まっているが、入居者は、隔日で一人ずつゆっくり入浴できるようになっている。拒否時は、時間をずらしたり、職員が交代する等で対応している。また、個別に、温度調整したり、入浴剤を入れたり、会話や歌等好むことと関わりながら、入浴を楽しめる環境を作っている。	毎日入浴できる状況にしており、16時から18時の時間帯となっているが、希望に合わせて入浴が出来るよう、職員のローテーションの工夫をしている。入浴剤を入れたり、音楽を聴いたり、その日の体調によってシャワー浴、清拭、足浴、手浴等の対応をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の観察を行い、状況に応じて休息を促すこともある。就寝や休息の前にはトイレの声かけを行ったり、ベッド周囲の環境を整える等の支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を各ケース記録にファイルしたり、看護師が、服薬一覧表を作成し、施設内研修で副作用などの説明を行い、薬に対する理解を深めている。また、変更時には、業務日誌・ケース記録に記載し、把握に努めると共に、副作用による変化が無いのか観察を行っている。		
50	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域ボランティアの方と一緒に、おしゃれの日やアレンジフラワーの日を楽しんだり、詩吟、歌、読書、縫い物、パズル、買い物等、一人ひとりに合わせた楽しみごとの支援に取り組んでいる。	ボランティアの人と一緒におしゃれ(化粧、マニキュア等)やアレンジフラワーを楽しんだり、ジグソーパズル、テレビ観賞、体操、詩吟、読書、縫い物、調理、片付け等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週2回同法人のデイサービスに出かけ、カラオケやレクリエーション等、利用者との交流を図っている。また、個別に散歩、買い物、通院、散髪、美容院等外出する支援を行っている。	個別の散歩、買い物、美容院等への外出支援や、週2回デイサービスに出向いてカラオケ、レクリエーションを楽しんだりしている。季節ごとの花見、初詣、ドライブに、利用者の希望、体調に応じて、車や車椅子を利用し、戸外に出かけられる様支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を所持している入居者が2名ある。必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話がかけられる。必要に応じて支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、安全に靴の着脱ができるように長椅子を配置したり、リビングとは違う場所できつるげるように、ソファがある。居室や玄関に四季の花を飾ったり、絵や写真等も飾り工夫に努めている。	玄関には安全に靴がはけるよう作りつけの長椅子を配置し、観葉植物や季節の花が活けてあったり、広い廊下はほど良い息向きの空間となっている。食堂はゆったりとした空間で台所と対面しており、料理の様子や匂いで食欲を感じたり、明るく開放的な窓からは畑などの自然や出入りの人や車が見られるなど、居心地の良い空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、椅子やソファを設置しており、活用されている。テーブルの席についても、入居者同士の会話がはずんだり、助け合えるような関係性を考慮して、配置している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品は、馴染みの物や使いやすい物を持ち込んでもらっている。仏壇、鏡台、テレビ、冷蔵庫、タンス等使いやすいように配置している。居室内には、ご家族の写真やご本人が作成した物を飾り、落ち着けるような空間作りに取り組んでいる。	本棚、机、椅子、洋服ダンス、鏡、テレビ、ベッド、仏壇等の馴染みの物や使い易い物が持ち込んであり、家族の写真、本人が作成した作品を飾ったり、人形を置いたり本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーになっている。玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置し、個々の身体能力に合わせて使用できるようになっている。また、居室とトイレと浴室の扉は色分けして、場所の認識やスムーズな誘導に活用している。		

2. 目標達成計画

事業所名 ヘステイア華城グループホーム

作成日：平成 22年 12月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	救急時や事故発生時に備えて、初期対応等は、内部研修を行ったり、マニュアルを作成しているが、定期的訓練が行えていないため、夜勤時の緊急対応は、十分とはいえない。	初期対応や応急処置等の定期的な訓練の実施	開催日、訓練内容等について検討する。 年間訓練実施計画を作成する。 偶数月に訓練を実施する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。